

# 南アルプス市 橋梁長寿命化修繕計画

## 【概要版】



市道 小曾利日中線「瀬戸大橋」

令和2年3月

(令和5年10月改訂)

南アルプス市 建設部 道路整備課

## ～ 目 次 ～

<b>1. 橋梁長寿命化修繕計画の背景と目的</b> . . . . .	<b>3</b>
1. 1. 背景 . . . . .	3
1. 2. 目的 . . . . .	3
<b>2. 長寿命化修繕計画の対象となる橋</b> . . . . .	<b>4</b>
2. 1. 対象となる橋の選定方針 . . . . .	4
2. 2. 計画の対象となる橋の数の変遷 . . . . .	4
2. 3. 橋種別の整理 . . . . .	4
2. 4. 橋長別の整理 . . . . .	5
<b>3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針</b> . . . . .	<b>6</b>
3. 1. 健全度の把握に関する基本的な方針（橋梁点検） . . . . .	6
3. 2. 日常的な維持管理に関する基本的な方針 . . . . .	6
<b>4. 橋梁点検結果の整理</b> . . . . .	<b>8</b>
4. 1. 橋梁点検の経緯 . . . . .	8
4. 2. 点検結果に基づく健全度の診断結果 . . . . .	8
4. 3. 点検結果に基づく損傷度の診断結果 . . . . .	9
<b>5. 長寿命化修繕計画</b> . . . . .	<b>10</b>
5. 1. 計画の変遷 . . . . .	10
5. 2. 計画期間 . . . . .	10
5. 3. ライフサイクルコスト算出期間 . . . . .	10
<b>6. 長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針</b> . . . . .	<b>11</b>
6. 1. 管理シナリオの設定 . . . . .	11
6. 2. 優先度評価指標に基づく優先順位の設定 . . . . .	12
6. 3. 損傷補修について . . . . .	12
6. 4. 新技術の活用方針 . . . . .	12
<b>7. 橋の耐震・耐荷補強に関する基本的な方針</b> . . . . .	<b>13</b>
7. 1. 耐震補強について . . . . .	13
7. 2. 橋長 5 m 未満のボックス化（更新） . . . . .	14
7. 3. 耐荷補強について . . . . .	14
<b>8. 橋梁長寿命化計画による効果（費用の縮減に関する具体的な方針）</b> . . . . .	<b>15</b>
8. 1. 長寿命化修繕計画の実施によるライフサイクルコスト縮減 . . . . .	15
8. 2. 集約化・撤去、機能縮小などによる維持管理コスト縮減 . . . . .	15
<b>9. 橋梁長寿命化計画の策定結果及び対策等措置の着手状況</b> . . . . .	<b>16</b>
9. 1. 橋梁長寿命化計画の策定結果 . . . . .	16
9. 2. 修繕等措置の着手状況 . . . . .	16
<b>10. 計画策定担当部署</b> . . . . .	<b>17</b>
<b>（南アルプス市橋梁長寿命化計画《第3次計画》）</b> . . . . .	<b>18</b>

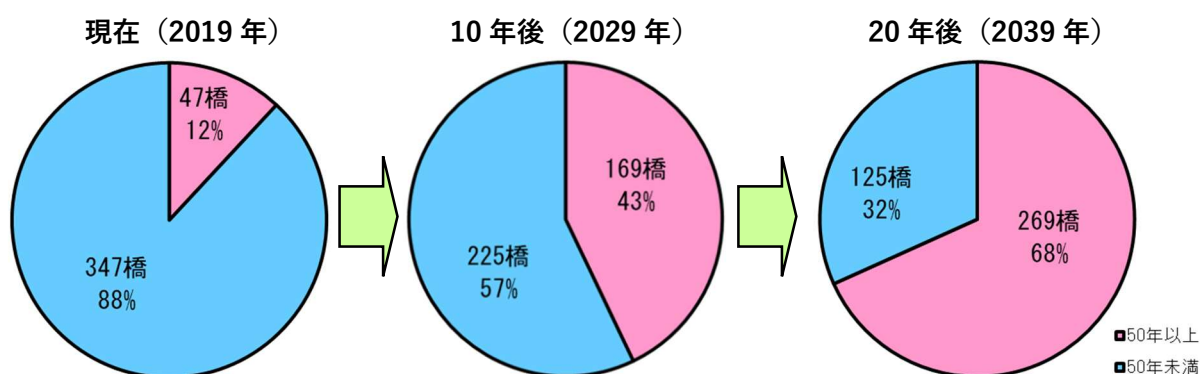
# 1. 橋梁長寿命化修繕計画の背景と目的

## 1. 1. 背景

南アルプス市が管理する市道上の橋（道路橋）は、令和2年3月末現在で394橋ある。

現時点で、既に建設後50年以上を経過している橋は12%だが、10年後には43%、20年後には急激に増加し68%に達する。

一般に橋の更新は、建設後50～60年といわれている。したがって、今後、橋の維持管理費や更新費が、急速に増加していくことが予想される。

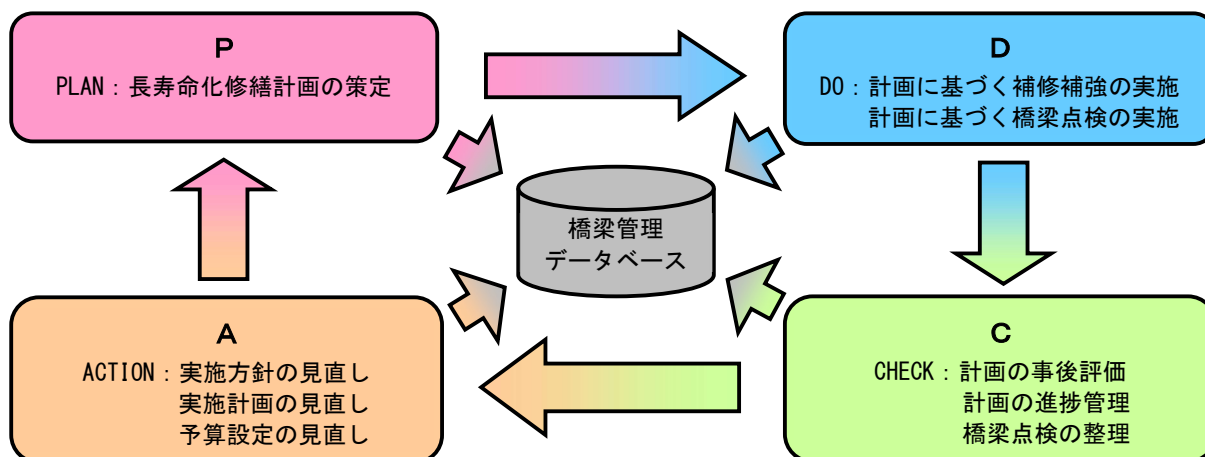


## 1. 2. 目的

このような背景から、限られた予算の中でより効率的に橋を維持していく取り組みが必要となる。

そこで南アルプス市では、従来の対症療法型（一般型管理）から予防保全型（長寿命化型管理）へと管理手法を転換することにより、コストの縮減を図りながら、橋の健全性の低下を防止し、寿命を延ばすことで、安全性・信頼性を確保した道路サービスを恒久的に提供するために、橋の長寿命化修繕計画を策定することとした。

以下に、今後の橋の管理方針をPDCAサイクルで示す。



## 2. 長寿命化修繕計画の対象となる橋

### 2. 1. 対象となる橋の選定方針

長寿命化修繕計画の対象となる橋は、南アルプス市が管理している橋長 2m 以上の道路橋、全 394 橋とする。(令和 2 年 3 月末時点)

### 2. 2. 対象となる橋の数の変遷

	橋梁数	備 考
管理している橋の数	394	(R2.3.31時点)
うち計画の対象となる橋の数	394	(R2.3.31時点)
うち平成22年度(2010年度)に計画策定した橋の数	66	橋長15m以上を対象
うち平成25年度(2013年度)に計画策定した橋の数	323	橋長2m以上を対象
うち令和元年度(2019年度)に計画策定した橋の数	394	橋長2m以上(溝橋を含む)を対象

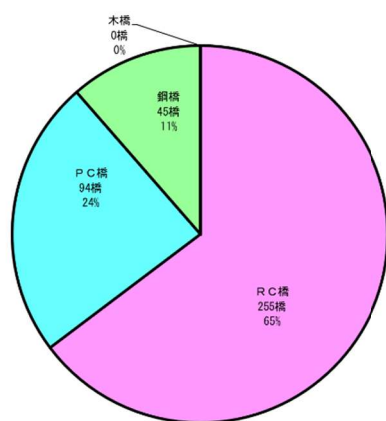
### 2. 3. 橋種別の整理

市管理橋梁を橋種別に整理すると、橋梁数ではR C橋が約 65%を占めるが、橋梁延長ではP C橋が最も多く、約 47%を占めている。

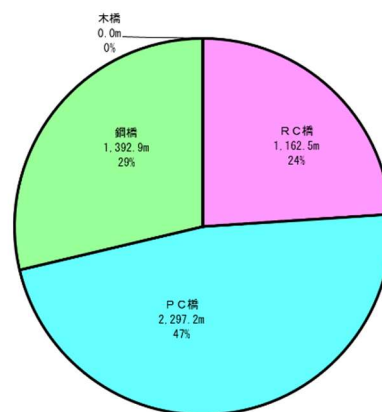
R C橋は短い橋に適しており、長くなるほどP C橋～鋼橋が適していることが結果から読み取れる。

市管理橋梁の橋種別現況

橋種	橋梁数	橋梁延長
R C 橋	255橋	1,162.5m
P C 橋	94橋	2,297.2m
鋼橋	45橋	1,392.9m
木橋	0橋	0.0m
合計	394橋	4,852.7m



橋種別橋梁数



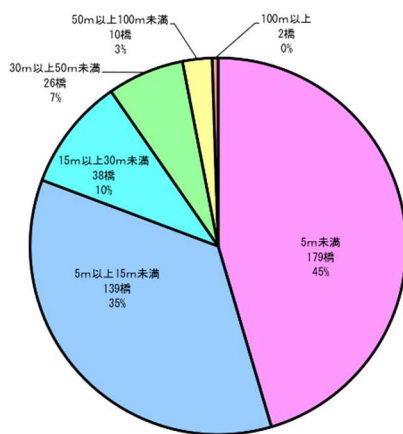
橋種別橋梁延長

## 2. 4. 橋長別の整理

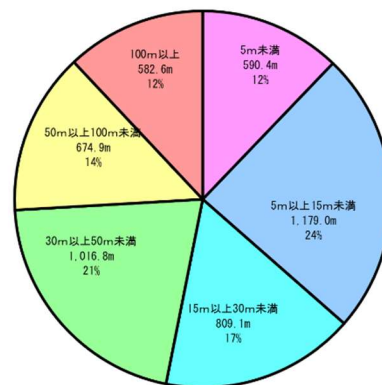
市管理橋梁を橋長区分別に整理すると、橋梁数では橋長 5m未満の短い橋梁が全体の約 45%を占めているが、橋梁延長では 12%と少ない。また、橋長 15m未満まで含めると、橋梁数では市管理橋梁の約 80%を占めている。

市管理橋梁の橋長区分別現況

橋長区分	橋梁数	橋梁延長
5m未満	179橋	590.4m
5m以上15m未満	139橋	1,179.0m
15m以上30m未満	38橋	809.1m
30m以上50m未満	26橋	1,016.8m
50m以上100m未満	10橋	674.9m
100m以上	2橋	582.6m
合計	394橋	4,852.7m



橋長区分別橋梁数



橋長区分別橋梁延長

### 3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

#### 3. 1. 健全度の把握に関する基本的な方針（橋梁点検）

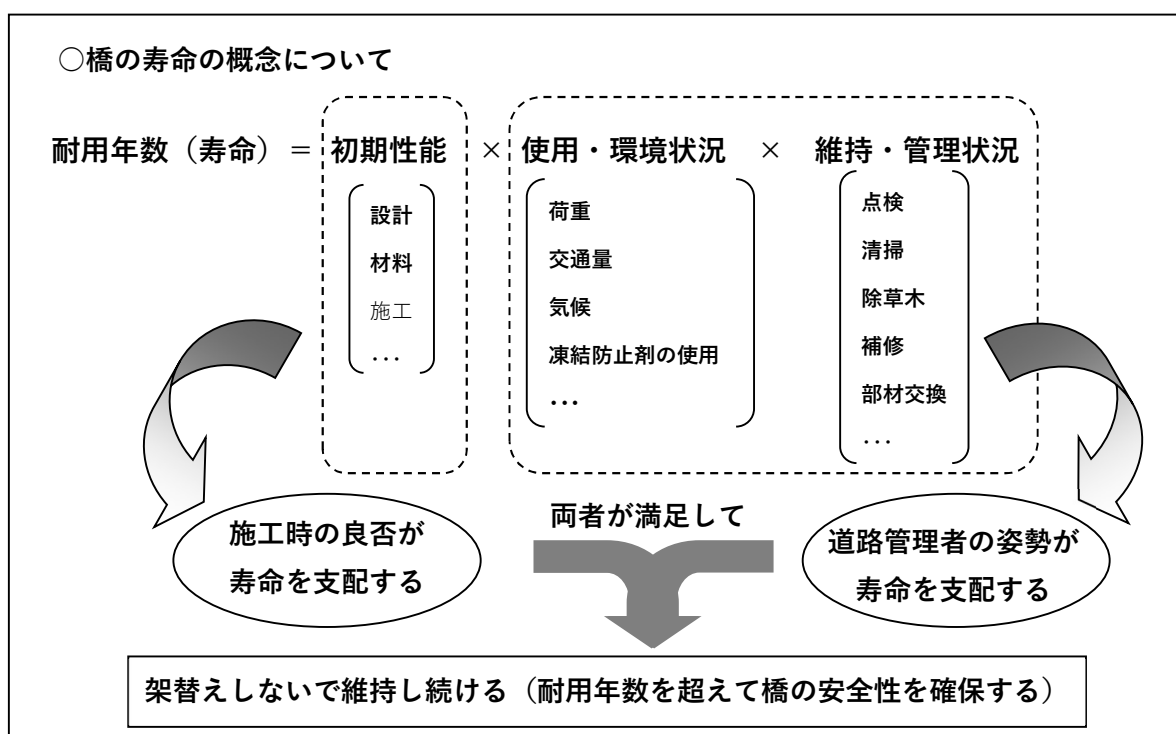
平成 24 年 12 月の中央自動車道笹子トンネル天井版崩落事故を契機として、社会インフラの老朽化や点検の重要性が注目されるようになり、平成 25 年 6 月に道路法が改正され、橋長 2m 以上の道路橋について、5 年に 1 度の近接目視点検が義務付けられた。

南アルプス市においても、専門家による 5 年に 1 度の詳細点検（定期点検）と市職員による日常的な巡回点検を実施し、この点検結果と、適切な維持補修データの蓄積により、橋の長寿命化への取り組みを充実させていくこととする。



点検車による点検実施状況（白根西橋）

#### 3. 2. 日常的な維持管理に関する基本的な方針



橋の長寿命化とは、50年から60年という一般的な耐用年数（寿命）を超えても長期的に橋の安全性を確保しながら維持管理していくことである。

橋の寿命の概念は、「初期性能」、「使用・環境状況」および「維持・管理状況」の3つの要素が相互に影響しあい評価される。初期性能は建設当初で決まってしまうが、残り2つの要素は維持管理の仕方によって寿命が支配される。

そこで、南アルプス市においては以下に示す維持管理方針をとることとする。

- 日頃のメンテナンスを繰り返すことによって、劣化の進行速度を抑え、長期的な健全性の確保につなげることとする。
- 具体的な重点対策として、橋の端部や排水ますなどに溜まった土砂の詰りを小まめに処理することとする。



## 4. 橋梁点検結果の整理

### 4. 1. 橋梁点検の経緯

南アルプス市では、橋の安全性確保の重要性を認識し、平成 20 年度から橋梁点検を実施している。現在（令和 3 年 11 月）までに市管理橋梁 394 橋の点検が完了している。

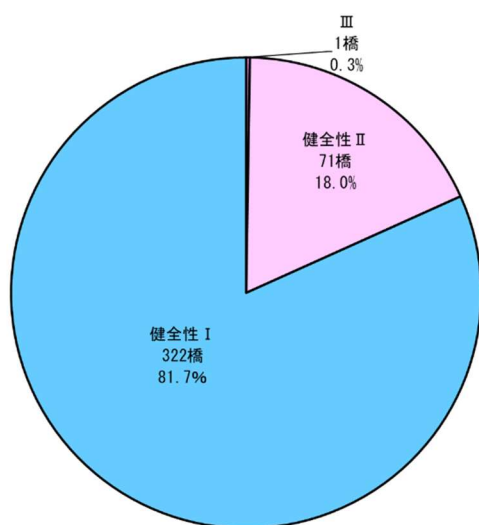
### 4. 2. 点検結果に基づく健全度の診断結果

「橋梁定期点検要領 平成 26 年 6 月 国土交通省道路局・防災課」に準拠し、市管理橋梁 394 橋全ての損傷度診断を行った。以下、その診断結果をとりまとめ、分析した結果を示す。

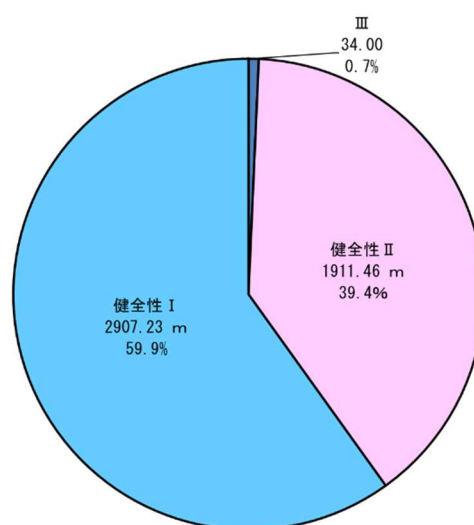
本市における健全性状況は、緊急措置段階Ⅳは無く、早期措置段階Ⅲが 1 橋、予防保全段階Ⅱが 62 橋、健全Ⅰが 332 橋であり、何らかの対応が必要な橋梁数は 18%、延長で 40% 程度である。

健全性診断区分橋梁数および橋梁延長

区分	定義	橋梁数	割合	延長 (m)
I	健全	322 橋	81.7%	2907.23
II	予防保全段階	71 橋	18.0%	1911.46
III	早期措置段階	1 橋	0.3%	34.00
IV	緊急措置状態	0 橋	0.0%	0.00
合計		394 橋	100.0%	4852.69



健全性区別橋梁数



健全性区別橋梁延長



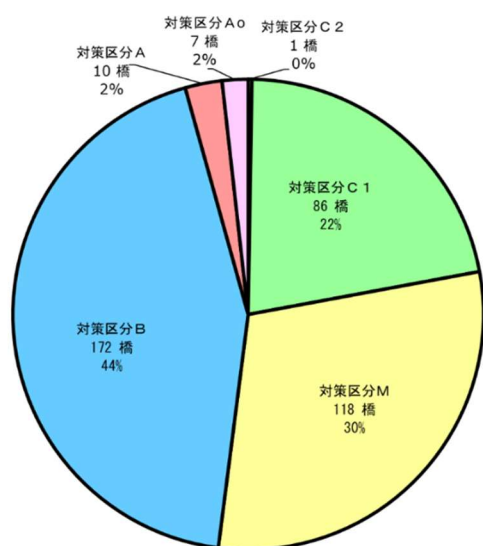
#### 4. 3. 点検結果に基づく損傷度の診断結果

市管理橋梁 394 橋全ての損傷度診断を行った。以下、その診断結果をとりまとめ、分析した結果を示す。

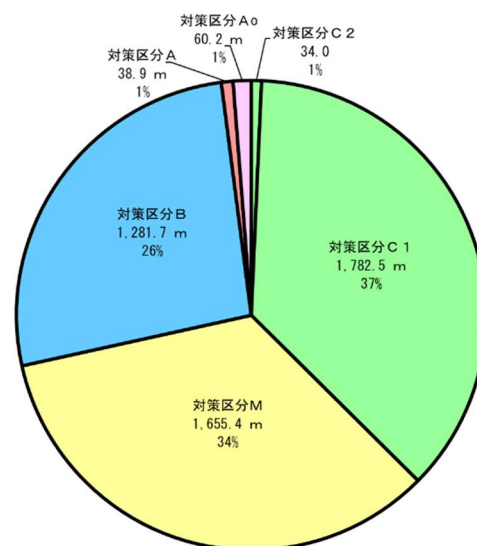
南アルプス市においては、損傷が著しい対策区分E1もしくはE2は存在しない。同様に全く損傷のない対策区分A0、Aも数パーセントある。残りの9割以上の橋は対策区分B、MもしくはC1、C2である。特に対策区分Bが多く、橋梁数(44%)および橋梁延長(26%)である。

対策区分別橋梁数および橋梁延長

対策区分	判定の内容	橋梁数	橋梁延長(m)	対応
E1	橋梁構造の安全性の観点から、緊急対応の必要がある。	0	0.0	点検終了後速やかに対応
E2	その他、緊急対応の必要がある。	0	0.0	点検終了後速やかに対応
C2	橋梁構造の安全性の観点から、速やかに補修を行う必要がある。	1	34.0	点検後5年以内を目処に対応
C1	予防保全の観点から、速やかに補修を行う必要がある。	86	1,782.5	点検後5年以内を目処に対応
M	維持工事に対応する必要がある。	118	1,655.4	維持管理により対応
S1	詳細調査の必要がある。	0	0.0	詳細調査で対応を検討
S2	追跡調査の必要がある。	0	0.0	追跡調査で対応を検討
B	状況に応じて補修を行う必要がある。	172	1,281.7	状況を見ながら対応を検討
A	損傷が軽微で補修を行う必要がない。	10	38.9	定期点検により観察
A0	点検の結果から、損傷は認められない。	7	60.2	定期点検により観察
合計		394	4,852.7	



対策区分別橋梁数



対策区分別橋梁延長

## 5. 長寿命化修繕計画

### 5. 1. 計画の変遷

南アルプス市では、平成 22 年度に橋長 15m 以上の 66 橋を対象とした長寿命化修繕計画を先行して策定した。《第 1 次計画》

平成 25 年度には、橋長 2m 以上の橋梁 323 橋（橋長 15m 以上の 66 橋を含む）を対象とし、平成 22 年度に策定した計画と統合した長寿命化修繕計画を策定した。《第 2 次計画》

令和元年度には、平成 26～30 年度に橋梁点検が 1 巡したことや、平成 26 年度に橋長 2m 以上の溝橋を橋梁として取り扱うことが位置付けられたこと等を踏まえ、橋長 2m 以上の橋梁 394 橋（溝橋含む）を対象とし、これまでの修繕実績の反映や優先順位等の見直しを行った上で、平成 25 年度に策定した計画と統合した長寿命化修繕計画を策定した。《第 3 次計画》

### 5. 2. 計画期間

《第 3 次計画》となる長寿命化修繕計画の計画期間を、令和 2 年度から令和 11 年度までの 10 年間（2020～2029 年度）とする。

ただし、新たな点検結果を得た場合は、計画の見直しを行い、長寿命化修繕計画の更新を行うものとする。（5 年に 1 度の定期点検が一巡するタイミングで見直し予定）

### 5. 3. ライフサイクルコスト算出期間

本計画のライフサイクルコスト算出期間は、適切な補修により橋梁を 100 年以上長寿命化させることを考えていることから、100 年間（2020～2119 年度）とする。

## 6. 長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

### 6. 1. 管理シナリオの設定

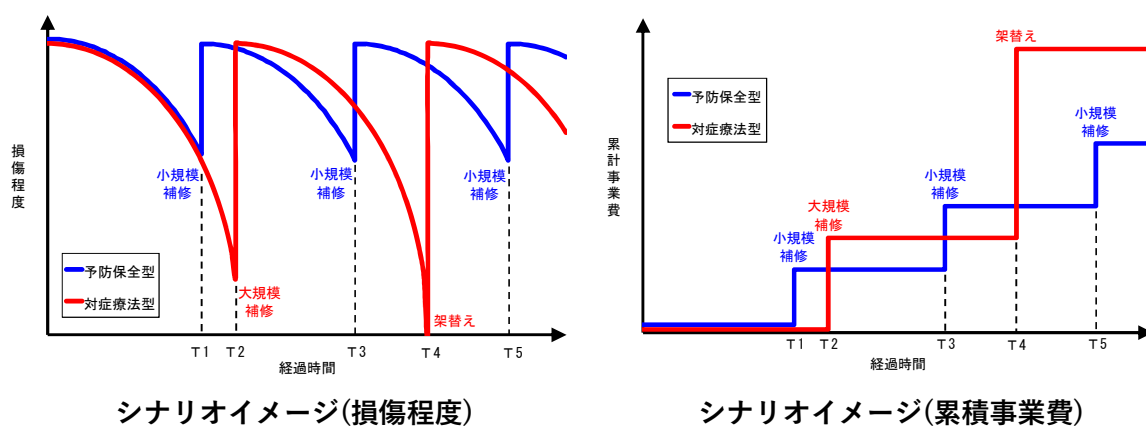
各々の橋に対し、以下に示す2つのシナリオで100年間のライフサイクルコスト※を算出し、比較検討した。

#### ① 予防保全型（長寿命化型）管理

損傷程度が軽微なうちに予防的措置を含めて小まめに対策を実施する。この場合、更新時期に達しても架替えは行わず、今後100年間維持し続けることとする。

#### ② 対症療法型（事後保全型）管理

損傷程度が甚大になってから対症的に対策を実施する。また、更新時期に達したら架替えを行う。架替え後についても、損傷が甚大になってから対症的に対策を実施する。



南アルプス市では、上記のシナリオイメージから分かるように、橋の長寿命化と累積事業費の削減を図るため、予防保全型（長寿命化型）管理を基本とし、原則として架替えは行わず維持管理していく方針とする。

※・・・ライフサイクルコスト：残存供用期間中に必要となるトータルコスト

## 6. 2. 優先度評価指標に基づく優先順位の設定

南アルプス市では、効率的な維持・修繕が図れるよう、以下の優先度評価指標を用いて橋の優先順位を設定し、予算規模に応じて、順次損傷補修を実施していく。

### (長寿命化修繕計画における優先度評価指標)

#### 指標1：交差状況（跨道橋）

〔主要路線を跨ぐ跨道橋〕→〔その他跨道橋および渡河橋〕の順で優先度が高い。

#### 指標2：迂回路の有無（集落の孤立）

〔迂回路なし橋梁〕→〔迂回路あり橋梁〕の順で優先度が高い。

#### 指標3：健全性の診断区分

〔Ⅳ〕→〔Ⅲ〕→〔Ⅱ〕→〔Ⅰ〕の順で優先度が高い。

#### 指標4：損傷度の対策区分

〔E1〕→〔E2〕→〔C2〕→〔C1〕→〔M〕→〔B〕→〔A〕の順で優先度が高い。

#### 指標5：緊急輸送道路及び災害時優先道路上

県指定緊急輸送道路上および市指定災害時優先道路上の橋梁は、優先度が高い。

#### 指標6：自動車交通量

自動車交通量が多い橋梁は、優先度が高い。

#### 指標7：大型車交通量

大型車交通量が多い橋梁は、疲労により損傷進行が早くなる可能性が高いため、優先度が高い。

#### 指標8：建設年次（供用年数）

建設年次が古い橋梁は、優先度が高い。

#### 指標9：橋長

橋長が長い橋梁は、優先度が高い。

## 6. 3. 損傷補修について

対策区分E1, E2, C1の損傷全てについて補修を実施する。

## 6. 4. 新技術の活用方針

道路橋の定期点検や維持・修繕・補強等を実施する際は、「新技術情報提供システム(NETIS)」や「点検支援技術性能カタログ(案)」などを参考に、新技術の活用を検討する。

従来技術と比較して、定期点検の効率化や合理化、維持・修繕等の措置の省力化や費用縮減などを図れる場合には、新技術を積極的に活用する。

令和11年度までに、修繕を行う橋梁のうち10橋で新技術を活用した修繕を進め、従来技術を活用した修繕と比較して100万円程度のコスト縮減を目指す。

## 7. 橋の耐震・耐荷補強に関する基本的な方針

### 7. 1. 耐震補強について

橋の長寿命化対策を進める一方、東日本大震災の後、発生する確率が高まったとされる東海地震や首都直下型地震に備えた耐震補強も重要な課題である。

そこで重要路線のネットワークを確保するため、南アルプス市では、以下の条件に該当する橋のうち耐震性能が劣る橋について、今後10年程度を目標に、順次長寿命化対策と併せて耐震補強工事を行う。

#### (耐震補強を実施する橋の条件)

- ① 跨道橋（主要路線をまたぐ橋）
- ② 迂回路のない橋（集落の孤立を防止）
- ③ 広域避難所（施設）へのアクセス道路上にある橋
- ④ 自動車交通量の多い橋（4,000台/日以上第3種2級相当）

山梨県内で想定される地震一覧表

想定される地震	今後30年以内の発生確率	南アルプス市への影響
東海地震	88%	甚大
南関東直下プレート境界地震 (現在は首都直下型地震*)	70%	中
釜無川断層地震	不詳	甚大
藤の木愛川断層地震	不詳	大
曾根丘陵断層地震	不詳	大
糸魚川-静岡構造線地震	14%	甚大



想定地震の震源域

## 7. 2. 橋長 5m未満のボックス化（更新）

耐震補強の実施方針と同条件とし、跨道橋、迂回路がない（集落が孤立する）橋梁、広域避難場所へのアクセス道路上にある橋梁および、自動車交通量が 4,000 台/日以上第 3 種第 2 級相当の橋梁のうち、橋長 5m 未満の橋梁については、ボックスカルバートへの更新とする。

## 7. 3. 耐荷補強について

1 車線もしくは車道幅員 5m 程度未満の橋梁に対しての耐荷補強（25 t 対応）は「必要ないと判断」した上で、山梨県の耐荷補強実施方針に準拠し、耐荷判定が C（概ね耐荷力が 20 t 未満）であり、かつ、疲労に起因すると思われる損傷がある橋梁について耐荷補強を実施することが望ましい。

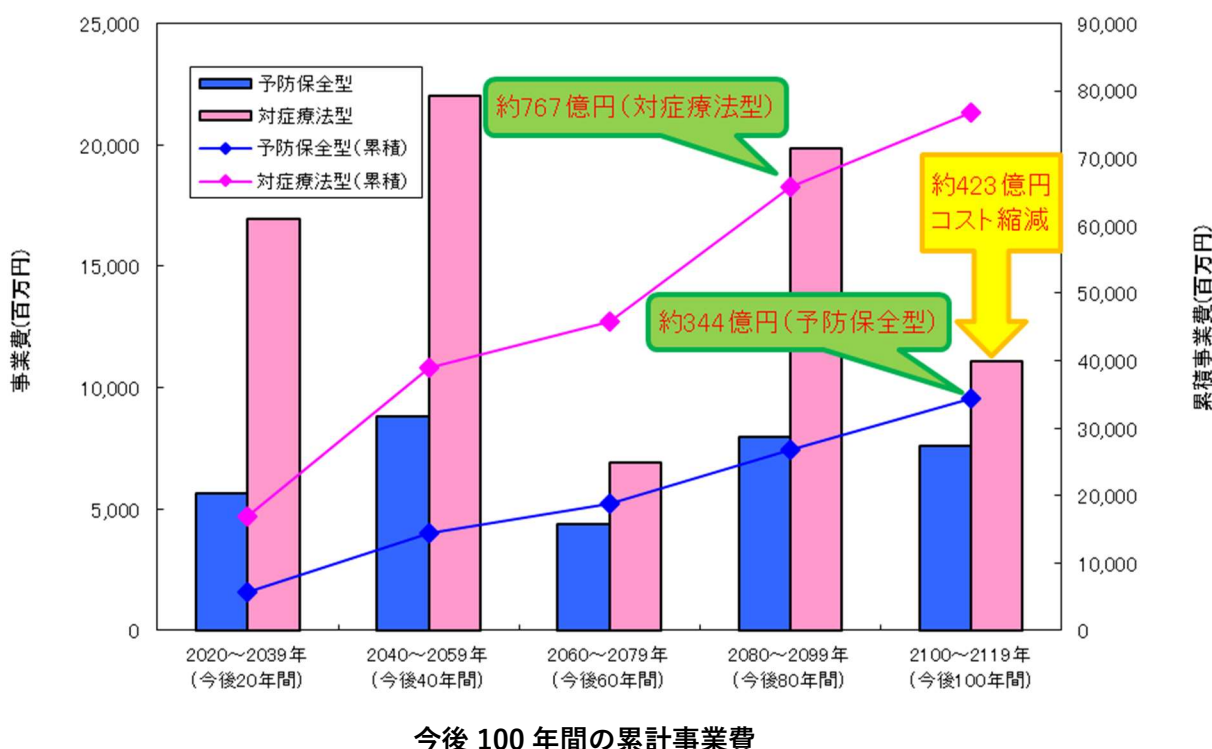
ただし、平成 25 年 6 月の道路法の改正により、道路橋の点検頻度が 5 年になったことにより、疲労に起因すると思われる損傷の進展状況も 5 年頻度で確認が可能となり適切な補修・補強対策を活用することにより、安全で効果的な維持管理が可能となった。

よって、南アルプス市では、地震時の落橋対策としての耐震補強を優先し、耐荷補強については見送ることとした。

## 8. 橋梁長寿命化計画による効果（費用の縮減に関する具体的な方針）

### 8. 1. 長寿命化修繕計画の実施によるライフサイクルコスト縮減

長寿命化修繕計画を策定する 394 橋について、今後 100 年間の事業費を比較すると、従来の対症療法型では約 767 億円が必要となるのに対し、長寿命化修繕計画の実施による予防保全型では約 344 億円となる。したがって、約 423 億円（約 55%）のコスト縮減効果が見込まれる。また、損傷に起因する通行制限等が未然に防止され、道路の安全性・信頼性が確保される。



### 8. 2. 集約化・撤去、機能縮小などによる維持管理コスト縮減

今後は、社会経済情勢や施設の利用状況等の変化に応じて、迂回路が確保され地元同意が得られるような道路橋については、維持管理コストの縮減を図るため、集約化・撤去、機能縮小などを検討する。

今後、迂回路が存在し、集約が可能と考えられる 2 橋については、周辺状況や利用調査を基に令和 11 年度までに 1 橋の撤去・集約化を目指すことで、点検費用について 50 万円程度のコスト縮減を目指す。



## 9. 橋梁長寿命化計画の策定結果及び対策等措置の着手状況

### 9. 1. 橋梁長寿命化計画の策定結果

基本方針に基づく今後10年間（令和2～11年度）の長寿命化計画はp18以降のとおり。

なお、新たな点検結果を得た場合は、計画の見直しを行い、長寿命化修繕計画の更新を行うものとする。

### 9. 2. 修繕等の着手状況

長寿命化修繕計画に基づく現在（令和3年11月）までの修繕等実績は以下のとおり。

実施/計画	計画年度	橋梁名	内容	橋の数
実施済	平成23年度	桜橋（櫛形地区）	修繕+耐震補強	1橋
	平成24年度	新上梅津沢橋（芦安地区）	修繕	3橋
		見晴し橋（芦安地区）	修繕	
		新中見沢橋（芦安地区）	修繕	
	平成25年度	金山沢橋（芦安地区）	修繕+耐震補強	6橋
		中田橋（櫛形地区）	修繕	
		桃園橋（櫛形地区）	修繕	
		落合橋（甲西地区）	修繕+耐震補強	
		東落合橋（Ⅰ期）（甲西地区）	修繕+耐荷補強	
		甲西橋（甲西地区）	修繕	
	平成26年度	滝坂橋（櫛形地区）	修繕	2橋
		東落合橋（Ⅱ期）（甲西地区）	修繕+耐荷補強	
	平成27年度	中央橋（Ⅰ期）（芦安地区）	修繕+耐震補強	7橋
		白根西橋（白根地区）	修繕	
		柳橋（櫛形地区）	修繕	
		大和川橋（櫛形地区）	修繕	
		上野橋（櫛形地区）	修繕	
		牧野1号橋（櫛形地区）	修繕	
	平成28年度	戸田橋（甲西地区）	修繕	4橋
		新寺の沢橋（芦安地区）	修繕	
		櫛形大橋（Ⅰ期）（櫛形地区）	修繕+耐震補強	
		狐川橋（Ⅰ期）（甲西地区）	修繕+耐震補強	
	平成29年度	中央橋（Ⅱ期）（芦安地区）	修繕+耐震補強	5橋
		駒場橋（Ⅰ期）（白根地区）	修繕	
		櫛形大橋（Ⅱ期）（櫛形地区）	修繕+耐震補強	
		通学橋（櫛形地区）	修繕	
		開平橋（櫛形地区）	修繕	
平成30年度	狐川橋（Ⅱ期）（甲西地区）	修繕+耐震補強	7橋	
	塩沢橋（白根地区）	修繕		
	駒場橋（Ⅱ期）（白根地区）	修繕		
	入増川橋（櫛形地区）	修繕		
	堰野川大橋（櫛形地区）	修繕		
	八糸川14号橋（若草地区）	修繕		
	田島橋（甲西地区）	修繕		
平成31年度	八糸川10号橋（甲西地区）	修繕	1橋	
	昭和橋（櫛形地区）	修繕		
令和2年度	的場橋（櫛形地区）	修繕+耐震補強	2橋	
	白根西橋（白根地区）	修繕		

※ 軽微な対策（排水桝の清掃等）は平成26年度(124橋)実施。

## 10. 計画策定担当部署

計画策定担当部署

南アルプス市 建設部 道路整備課（維持管理担当）

〒400-0395 山梨県南アルプス市小笠原 376

TEL 055-282-6368（直通）

FAX 055-282-6319

URL <http://www.city.minami-alps.yamanashi.jp/>

E-mail [doroseibi@city.minami-alps.lg.jp](mailto:doroseibi@city.minami-alps.lg.jp)

(南アルプス市橋梁長寿命化修繕計画)  
《第3次計画》













南アルプス市橋梁長寿命化修繕計画《第3次計画》

(2021.11時点)

NO.	優先順位	最近の点検年度	健全性	対策区分	橋梁番号	橋梁名称	路線名	所在地(大字)	橋長(m)	径間数	全幅員(m)	橋梁形式	高橋・修繕計画											対策内容			
													建設年	H31・R01年度(2019)	R02年度(2020)	R03年度(2021)	R04年度(2022)	R05年度(2023)	R06年度(2024)	R07年度(2025)	R08年度(2026)	R09年度(2027)	H10年度(2028)		R11年度(2029)		
361	361	R02年度	I	B	0209	中河原4号橋	今諏訪3号線	下今諏訪	3.0	1	4.5	C-BOX	H10	1998	58,417	55,810	59,648	80,479	80,487	80,937	80,295	80,487	80,295	80,405	80,599		
362	362	R02年度	I	B	0122	神明川4号橋	八田19号線	野牛島	3.0	1	7.5	C-BOX	H12	2000		点検											
363	363	H29年度	I	B	0926	西川12号橋	宮沢・東南湖線	西南湖	6.5	1	5.0	P-C橋	H14	2002				点検							点検		
364	364	R02年度	I	B	0802	御崎排水5-1号橋	若草18号線	鏡中橋	2.1	1	6.0	C-BOX	H14	2002												点検	
365	365	H30年度	I	B	0781	五明川5号橋	工業団地6号線	大師	35.0	1	8.2	鋼橋	H15	2003					点検								点検
366	366	H29年度	I	B	0578	堀野川6号橋	中野3号線	上野	8.0	1	5.7	P-C橋	H17	2005					点検								点検
367	367	H30年度	I	B	0564	堀野川無名橋	中野34号線	中野	8.6	1	5.2	P-C橋	H19	2007					点検								点検
368	368	R02年度	I	B	0487	寶院橋	若草213号線	加賀美	4.2	1	6.6	C-BOX	H20	2008													点検
369	369	R02年度	I	B	0476	三三川7号橋	若草247号線	加賀美	3.9	1	12.0	C-BOX	H20	2008													点検
370	370	R02年度	I	B	0478	三三川9号橋	若草2線8号線	加賀美	3.3	1	6.2	C-BOX	H20	2008													点検
371	371	R02年度	I	B	0494	三三川12号橋	若草915号線	加賀美	3.1	1	16.4	C-BOX	H20	2008													点検
372	372	R02年度	I	B	0474	三三川5号橋	若草244号線	加賀美	2.9	1	6.0	C-BOX	H20	2008													点検
373	373	R02年度	I	B	0475	三三川6号橋	若草246号線	加賀美	2.8	1	10.0	C-BOX	H20	2008													点検
374	374	R02年度	I	B	0477	三三川8号橋	若草248号線	加賀美	2.8	1	7.5	C-BOX	H20	2008													点検
375	375	H30年度	I	B	0778	五明川6号橋	荊沢29号線	荊沢	10.3	1	4.2	P-C橋	H21	2009					点検								点検
376	376	R02年度	I	B	0940	八赤川2号橋	八赤線	東南湖	14.4	1	5.2	P-C橋	H23	2011					点検								点検
377	377	H30年度	I	B	0505	藤塚2号橋	橋北2号線	小室原	3.4	1	2.6	R-C橋	S40	1965													点検
378	378	H30年度	I	B	0581	大和川橋歩道橋	橋形8号線	上宮地	37.7	1	3.3	P-C橋	H21	2009					点検								点検
379	379	R01年度	I	B	0753	和泉東3号側道橋	荊沢・東南湖線	西南湖	3.2	1	3.1	R-C橋	H26	2014		点検				点検							点検
380	380	H30年度	I	A	0723	八赤川4号橋	荊沢・市川大門橋	和泉	14.5	1	10.0	P-C橋	H24	2012					点検								点検
381	381	H29年度	I	A	0563	堀野川大橋	橋形1号線	中野	12.6	1	6.8	P-C橋	S50	1975													点検
382	382	H29年度	I	A	0516	入増川橋	曲輪田30号線	曲輪田	9.2	1	4.6	R-C橋	S40	1965					点検								点検
383	383	H30年度	I	A	0486	河原添橋	若草148号線	十日市場	2.6	1	4.3	R-C橋	S40	1965													点検
384	384	H30年度	I	A	0768	茅川2号橋	大師1号線	大師	2.0	1	4.2	R-C橋	S40	1965													点検
385	385	H30年度	I	A	0761	堤沢3号橋	秋山10号線	秋山	16.5	1	4.2	P-C橋	S42	1967													点検
386	386	H29年度	I	A	0236	堤沢橋	渚90号線	堤前	13.7	1	4.3	鋼橋	S45	1970													点検
387	387	H29年度	I	A	0465	八赤川14号橋	若草284号線	藤田	7.0	1	5.1	R-C橋	S50	1975													点検
388	388	H30年度	I	A	0551	平岡4号橋	平岡39号線	平岡	2.5	1	5.6	R-C橋	S56	1981													点検
389	389	H30年度	I	A	0915	田島橋	田島10号線	田島	39.2	2	8.0	P-C橋	S62	1987													点検
390	390	R01年度	I	A	0119	長盛院橋	八田143号線	徳永	3.3	1	5.9	鋼橋	H10	1998		点検				点検							点検
391	391	R02年度	I	A	0421	御崎排水6号橋	若草190号線	鏡中橋	2.4	1	6.5	C-BOX	H14	2002													点検
392	392	R02年度	I	A	0729	茅川1号橋	荊沢・田島線	田島	3.7	1	9.1	C-BOX	H16	2004													点検
393	393	H30年度	I	A	0938	狐川2号橋	和泉1号線	戸田	16.5	1	10.0	P-C橋	H22	2010													点検
394	394	R02年度	I	A	0582	北沢川2号橋	橋形1号線	中野	5.7	1	5.2	R-C橋	H23	2011													点検
						(橋梁点検)									18,543	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	
															58,417	55,810	59,648	80,479	80,487	80,937	80,295	80,487	80,295	80,405	80,599		

※赤字記載の金額は実施金額を示す。これ以外の金額は橋梁点検結果より、建設技術センターの市町村道路管理支援システムから自動算出された金額(直接工事費)を基に、経費見込の金額として約3割を見込み、算出したものである。

このため、詳細設計を実施していない現段階では、実際の事業費と、乖離が生じるものもある。

※赤字記載の橋梁番号および橋梁名称は令和2年度定期点検対象橋梁を示す。青字記載の橋梁名称等については、前回の計画より一部見直ししたものを示す。